

情報コーナー



■福岡県の希少野生生物 発刊

ー福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類ー

絶滅のおそれのある野生生物をリストアップし、その現状や危機の要因などを明らかにしたレッドデータブックが発刊されました。油山のアカマツ群落も希少な植物群落として挙げられています。

県庁一階の県民情報センター、ジュンク堂等で購入できます。

■地域の生物多様性保全活動促進のためのセミナー

- 1 日時: 2012年1月25日(水)9:00~16:30
- 2 主催: 国土交通省(森会協力)
- 3 参加費: 無料(事前申込み必要。森会会員の方は鎌田まで連絡ください。)
- 4 お問い合わせ先: 株式会社森里川海生業研究所
担当: 若尾 TEL: 03-6450-9573
メール: wakao_kentaro@nariwai-navi.jp

油山の樹木ア・ラ・カルト(27)

皆さんの奥様やお嬢さんorモトカノに「郁子さん」と言う女性は、いらっしゃるいませんか？漢字で「郁子」と書いて「ムベ」と読みます。ムベは、アケビ科・ムベ属・つる性・常緑の木本類。別名はトキワアケビ(常磐通草)ですが、その他にもウベ、グベ、フコビ、イノチナガ、コッコなどの方言名も多く、人間との関わりの深い植物であったことが分かります。油山でもごく普通に自生しており、葉が常緑で美しいため、民家の垣根などに棚仕立てされているのを見かけます。長い葉柄の掌状複葉は、幼木の頃は三小葉ですが、成長するに従って五から七小葉となり、七小葉で結実することから、七五三蔓(シチゴサンヅル)とも言われています。日本では、一・三・五・七・九の奇数を祝儀の数としています。が、両端の一と九をカットして、真ん中の七・五・三をとって嘉祥または瑞祥と呼び、長寿や延寿の縁起木としました。お正月に門戸または神棚に張る注連縄も、同じく七五三縄(しめなわ)で表し、わらの茎を左へ三筋・五筋・七筋に捻り上げて作ります。また、男児が3歳と5歳、女児が3歳と7歳になると、子どもの成長を願って、11月15日に氏神様へ参詣する行事が七五三(しめ)の祝いです。

ムベの果実の特徴は、果実がアケビ(通草)の様に縦に裂開せず、熟成しても閉塞したままです。暗紅紫色の果実を割ると、中の黒い種子を囲む果肉はアケビよりも甘く、昔は砂糖の代用品として使われました。名前の由来については、天智天皇が近江に行啓された折、そこにいた老夫婦に長寿の秘訣を尋ねられたところ、「この実を食べております」と言っ

てムベの実を差し出し、天皇が「むべ(宜=なるほど、もつとも)なるかな」と仰せられたとか。それ以後、ムベの実に蔓と葉を付けたまま、皇室に献上されていたとの記録があり、ムベが大贄(おおにえ)(地方の特産物や珍品を皇室に献上)の1品目であったことは明らかです。ところで、肝心の郁子さんです。「郁」はムベの花や果実の馥郁(ふくいく)とした香りと、常緑の葉と蔓が伸びる盛んな様を言い、「子」は果実とか種子の意味から、郁子という漢字が当てられたものと思います。植物名については、山野草をはじめ樹木名もカタカナではなく、漢字で表すと名前の由来やその植物に対するイメージが湧いてきて楽しいですね。(安部泰男)

